臨床報告

大阪という土地柄に特有の耳鳴り・耳聾の病態

痰湿鬱結（痰湿阻絡）を考慮した難聴の鍼灸治療

関西中医鍼灸研究会世話人　結（ゆい）針灸院院長　藤井 正道

痰湿鬱結あるいは痰湿阻絡がポイント

耳鳴り，耳聾は中医学では一般的には肝火上炎，痰火鬱結，腎精虚損，脾胃虚弱の４分類ですが，これを５分類とする。

痰火鬱結と脾胃虚弱の中間形として痰湿鬱結あるいは痰湿阻絡といった分類を加えるのはどうでしょうか。痰湿があっても化火しない場合が大阪の臨床ではほとんどのためです。日本の患者さんは内湿を持つ方が多く湿度の高い地方も多いため，大阪以外でもよくみられるのではと推測しますが，各地方のことはそこの先生方にしかわかりません。

痰火上壅して耳竅をふさぐのではなく，湿邪が阻滞して手の少陽三焦経，足の少陽胆経を経絡不通にすると考えます。

西医的には突発性難聴と重なることが多く，耳管開放症の一部も含みます。

痰湿阻絡は陽気が動き始める２月～３月によくおこります。陽気が動きはじめるが，まだ残る外の寒湿の邪と身体の痰湿，湿邪が経絡不通をおこし，発症します。また６月にもよくおこります。エアコンが入り始める頃です。エアコンの寒邪が少陽経の流れを阻滞させるのです。

２～４月初旬の大阪の春をどうみるか

疏肝理気＋通陽，ときには温陽化湿

立春以降の春は，少陽の陽気をはじめとする全身の陽気が上昇する季節であり，五臓では「肝」と対応しています。立春以降になると，脈はやや「弦」となり，「肝鬱気滞」「肝陽上亢」「肝火上炎」などの症状が増えてきます。陽気が頭部に上昇するため，頭痛や耳鳴り難聴，顔面部の症状も増えてくるといわれています。この場合，中医学の治療原則では，疏肝理気，平肝潜陽が主要な治則です。でも全身の陽気が素直に上昇するのは中国の話，大阪はそうとばかりはいえません。春でも頭にお灸をすえている，つまりは陽気を上昇させている日本鍼灸の治療家の

方もたくさんいらっしゃいます。

春は三寒四温で，寒くなったり暖かくなったりする寒熱往来の季節。北京の春はゴビ砂漠からの砂嵐にみまわれ，目も開けていられないほどの風が吹き，まさに春の主気は「風」ということが実感できます。雨もほとんど降りません。

一方，大阪の春は中国と違い，春は長雨がよく降ります。菜種梅雨という言葉もあります。春には既に湿邪があるのです。湿邪とまだまだ残る寒さが要因となり，本来であれば上昇すべき陽気がうまく上がらず，気がめぐらずに気滞が発生したり，時には陽気不足の症状が現れることもあります。

大阪の風は中国ほど強くないのです。私は大阪の春の主気は風（弱い）と寒と湿と考えています。疏肝理気，通経活絡と通陽，ときには温陽化湿が春の治則です。

湿邪が経絡につまり，気の正常な運行を阻害しています。これは大阪特有の現象です。春先の寒さと湿邪が陽気の上昇を抑えていることがよくみられます。

以上の理由から痰湿鬱結あるいは痰湿阻絡といった状態がおこってきます。痰火鬱結から火の要素を除いた状態です。

主　症：耳のつまり感，難聴，耳鳴り
随伴症：首のこり，痛み。肩のこり，痛み。頭重感，胸悶，胃脘部の膨満感
舌　脈：舌質淡紅舌苔薄白苔または白膩苔脈弦または滑
証候分析：耳鳴りがたえずある。ひどいときは聾のように閉塞。痰湿，湿邪が阻滞して手の少陽三焦経，足の少陽胆経を経絡不通にする。
首のこり，痛み。肩のこり，痛み。頭重感，胸悶，胃脘部の膨満感。痰湿，湿邪が阻滞して経絡不通とするためにおこる。火はなく上逆する力も弱いため，欬嗽はほとんどない。
口の苦味も火がないために，おこらない。
治　測：通陽と耳周囲の経絡を通す。健脾去湿去痰。温陽化湿。

症例 1

患　者：鈴木リカ子（仮名）
第 1 診：0X 年 6 月 5 日

40 代の女性です。左耳の聴力が突然，低下した，聞こえにくいとおっしゃいます。昨日，耳鼻科で突発性難聴の診断を受けたとのこと。実は鈴木さんは右耳の聴力が以前から弱く，左耳まで聞こえにくくなったら大変だということで来院されたのです。肩や首もこる。首の左側が寝違いをしたような気がするとのことでした。数年前パニック障害の治療で当院を受診されています。

舌　脈：舌：淡紅，舌苔：薄白苔，脈：細滑。
弁　証：痰湿阻絡。
治　測：通陽と耳周囲の経絡を通す。健脾去痰。
配　穴：側臥位で四神聰，風池，左頭維，左完骨に 2 番針。電針 15 分。
左耳：耳門，聴宮，聴会，翳風に 01 番針。刺入するだけで，手技はせず，得気は得る。
督脈通陽法。命門，至陽，大椎に 5 番針で灸頭針。10 ～ 15 分程度。燃える艾使用。これを 2 回，つまり 30 分程度温通を続ける。
膈兪，脾兪，左肩井に 2 番針。平補平瀉して留針。

第２診：６月７日同上

初診で自覚症状は消えました。耳鳴りも耳の不快感もなくなり，聞こえるようになったのですが，耳鼻科で検査するとまだ聴力の低下があったため，治療を続けることにしました。

第３診：0X 年６月９肩こり等や耳が聞こえにくいという自覚症状はありません。

配　穴：仰臥位。

四神聰に２番針。左耳門，聴宮，聴会，翳風に 01 番針。左耳に棒灸をかける。左合谷，左完骨，左外関に２番針。平補平瀉して留針。

至陽，大椎に生姜パック。神闕に温パック。

肩こり等もなく経絡は通っていると考えました。生姜パックと棒灸で温陽通絡を強化，聴力の回復に集中しました。

生姜パックは生姜灸を工夫して使いやすくしたものです。

生姜パックはすりおろした生姜を小さなお茶パックに入れます。鍼と組み合わせることもできます。斜刺した鍼の上に生姜パックをのせます。生姜パックは電子レンジで暖めます。温める時間は生姜パックの量，冷え具合によって異なりますから，各自で工夫してください。人肌が目安です。体温と同じくらいです。

艾を使わなくてもサランラップで覆うことにより，生姜灸と同じ熱感を得ることができます。なにより火傷の危険がありません。

第４診：６月 13 日

聴力検査でまだ異常があったため，再度治療しました。

配　穴：仰臥位。

四神聰，完骨に電針。左耳門，聴宮，聴会，翳風に 01 番針。両耳に棒灸。

左合谷，左外関に２番針。平補平瀉して留針。

至陽，大椎に生姜パック。神闕に温パック。

両耳に棒灸をかけることで，脳全体の通経活絡を狙いました。

３週間，５回の治療の後，聴力検査で回復を確認。以下のような報告のメールをいただき治療を終了しました。

今日，耳鼻科の方へ行ってまいりました。私は，もともとは右耳が悪く今回は左耳の治療でしたが,右耳の聴力も良くなってきているという意外なものでした。

左耳は，ほぼ回復しているそうなので，まずは報告まで。以上。

症例２

患　者：稲葉幸子（仮名）

第１診：0X 年７月 11 日

30 代の女性の方がいらっしゃいました。２歳の赤ちゃんをお持ちで，まさに子育て真っ最中。出産後に右側のあごに違和感を感じるようになり，かくんかくんいうようになった。右肩もこる。今年の梅雨ごろから腰が痛くなってきた。１週間前から右の耳が聞こえにくくなり，耳鳴りもするようになった。耳鼻科で突発性難聴と診断され，聴力も落ちてきているとのことでした。

舌　脈：舌：淡紅，舌苔：薄い白膩苔，脈：細滑。

弁　証：痰湿阻絡

治　測：通陽と耳周囲の経絡を通す。健脾去痰。

経　過：出産後はおそらく気虚から気滞となり右の少陽経陽明経中心にあごに違和感が出現した模様。顎関節症と診断されています。

６月に湿邪とエアコンの寒邪から督脈や少陽経の経絡が阻滞し，腰痛が出ました。６月にも腰痛の直後に右耳の耳鳴りがしたが，３日でおさまったとのこと。

７月初めに耳鳴りが再発，耳鼻科で突発性難聴と診断されステロイド剤の投与をはじめたが，１週間たっても治らない。モーター音のような耳鳴りがして聴力も低下し，音が聞こえにくい。自分の声はこもって聞こえる。腰も痛く肩もこるとのことでした。

配　穴：右上側臥位で治療。

腰間と神闕へ温パック。命門，大椎へ棒灸。

右側頭維と聴宮，翳風，完骨へ２番針，留針。

翳風，完骨へ刺針して得気させると，響きが環跳に感じるといわれます。針の響きに敏感な方です。足臨泣と陵下に刺針し，陵下の響きは肩井に送りました。針の響きに敏感で，針感を経絡にそって送りやすい患者さんの場合は，少数の針で経絡を通すやり方を私はよく使います。敏感な方ですから，特に手技はせず，針を保持して得気を持続させ針感を経絡にそって送ります。

治療の最後に湧泉に吸い玉をかけ，引経しました。吸い玉は電動コンプレッサーを使うタイプで３～４回，付けたり離したりします。

第２診：７月 13 日

12 日夕方まで耳鳴りもおさまり，聞こえやすかった。耳鳴りするようになったが以前ほどではない。

同じ配穴に百会，右攢竹を加える。攢竹で太陽経を通絡する。

この頃からステロイド剤の投与中断。

第３診：７月 18 日

右耳の棒灸を加える。

第７診：８月１日

耳鳴りはほとんど気にならなくなった。耳もよく聞こえる。

８月８日までの４週間ほどの間に８回ほど治療し，耳の異常，耳鳴り難聴はなくなりました。ついでにあごの違和感，腰痛肩こりも解消しました。ステロイド剤の投与は７月中旬に中止しています。

突発性難聴に針灸を用いるとよく効きます。とくに今回の２例のように新鮮な症例ではほとんど治癒に持ち込めます。化火を恐れず，温通温陽させることで治療効果は上がります。